

## 電子決済の水供給サービス

# 鉱研工業、ウガンダで年内

鉱研工業はアフリカのウガンダで、電子マネーで決済する水供給サービスを年内にも開始する。イバンダ県イコロラ地区の住民が約5カ所のスタンドで水を購入し、設置端末にカードをかざし決済する。同地区人口の約5%に当たる1000人程度に提供し、順次利用者の拡大を目指す。衛生環境が悪く水因性疾患が課題となる地区だけに、安全で容易な仕組みを確立して水アクセス率の向上につなげていく。

## アフリカ横展開

鉱研工業はウガンダで、半年間で補助金1000万円弱を受け、自前資金は約500万円。運営には元鉱研工業社員のウガンダ人があたる。現地の水道公社、マラウイのIT企業のiShip)に採択さ



水供給サービス構想のイメージ。決済用端末にチャージしたカードをかざす

MosySと組む。水道公社職員が2023年11月に国際協力機構(JICA)のAFRICAMANがIT関連の維持管理にあたる。ウガンダでは、鉱研工業の構想

に関心を持ち実施を要望したためだ。

同社は事業を軌道に乗せ次第、他のアフリカ諸国にも横展開させる考え。木山隆二郎社長は「10年先をにらんでアフリカの農業への地下水利用も実現させたい」としている。

同社はアフリカで3300本超の井戸を掘削するなど、地下水開発と浄水・水道施設工事などの実績を持つ。マラウイとブルキナファソの案件はJICAの中小企業・SDGsビジネス支援の基礎調査事業などに採択され、検証を重ねてきた。